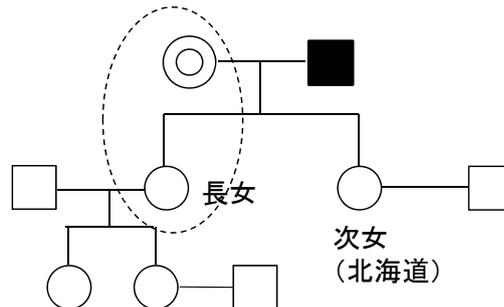


症例：84歳（初診時）女性 重度アルツハイマー型認知症

○ 家族背景

夫は20年以上前に他界し、子供は娘が2人。次女は北海道に嫁いでいった。近くに住んでいた長女が同居して、ほぼ一人で介護にあたっている。孫は独立し、仕事を持っているが、受診の時などは協力してくれる。



○ 生活背景

福井県生まれ。以前は夫婦で自営業（染物屋）を営んでいた。

○ 社会的状況

国保、老人医療受給者証あり。年金は国民年金（月額4万程度）。初診時介護保険は未申請。御本人は一軒家の1階で生活している。

○ 相談者（長女）の地域包括センターでの相談内容

暴言や暴力、徘徊、排泄の問題などに、どのように対応したらよいか相談したい。

○ 初診（物忘れ出現から7年後の12月初診）までの経過

（※下線部のような症状を行動心理徴候（BPSD）という。）

- ・ X年頃より物忘れがあり、時々つじつまが合わないことがあった。X+3年頃より物忘れがひどくなり、X+6年に孫が結婚してからは寂しがり、1人になると不安感が強くなった。長女の姿が見えないと、すぐ名前を呼ぶようになり、片時も離れられない状況になった。X+6年秋にA大学病院のものわすれ外来を受診し、アルツハイマー型認知症（AD）と診断され、塩酸ドネペジル（アリセプト[®]）を処方されたが、副作用で中止し、以後通院を中断している。

裏面に続く

- ・ X+7年夏頃から、歩行が拙劣になり、また、頻回にトイレに行くことが多くなった。和式トイレに便座に据え置き式の洋式便座を取りつけてからは、尿意を感じると表にでて、外で排泄をするようになり、11月末からは夜間にも外に出て行くようになった。
- ・ X+7年の11月頃から不安感が増し、暗くなると落ち着かなくなり、振るえながら、「恐ろしい」「家に帰る、家には両親がいるから」と言うようになった。長女が「明日にしようね」というと、「そうやってごまかそうとする。だましにはのらない。」と言う。一度外にでて、散歩に付き合い、しばらくして家に帰ってきても、「またここに連れてきた」と怒る。この1~2年は、長女のことは親戚の人と考えているようだ。毎日「家に帰りたい」という。テレビに話しかけることもあり、現実と区別がつかない。
- ・ 興奮すると「おなかが痛い」と訴え、ひどいときは30分~40分に1回のペースでトイレに行く。
- ・ お風呂にいれようとする「こんなにべとべとにして!」と怒り、食べ物も「こんな汚い物を誰がたべるのよ・・・」と言って、食事に手をつけようとせず、少しのバナナと甘栗だけを食べている。最近では、物を投げたり、長女を叩いたりするようになった。
- ・ 地域包括職員に連れられて、外来受診した。

場面 1

行動心理徴候（BPSD）へのアプローチ

- Q AさんのBPSDとご家族の生活困難について、どのようにアプローチしたらよいでしょうか？（地域包括センター職員を含む初回のカンファレンスの設定）
- ディスカッションのガイド
- ① それぞれの専門職の立場で行うべきことについて考えてください。
 - ② 各職種は、それぞれがもつ情報をなるべく最初にお話し下さい。
 - ③ 「まずは、何から支援していきますか」という視点でもディスカッションしていただくとよいかと思えます。
 - ④ 基本講義のBPSD対応の基本などを参考にして議論してください。

司会・発表：ケアマネジャー
書記：歯科医師・歯科衛生士

2013年3月20日